

2019年

# 人権一口講座



## 「選択」

今からずうっとずっと前、私が幼稚園くらいの時のバスでの出来事です。私がじいちゃんと二人で路線バスに乗っていると、あるバス停を過ぎました。幼かった私なりに降りるバス停を過ぎたんじゃないかとドキドキしました。すると、じいちゃんは「バス停は通り過ぎたあーと叫び、私は「えーっ、やっぱり。」と思った出来事がありました。じいちゃんは、運転手さんに「バス停通り過ぎたけん、降りしてください。」と訴えると、運転手さんはバス停でもないのに降ろしてくれました。おかげであまり歩くことなく家に帰ることができました。

時代は変わって、今の時代だったらどうでしょう。同じように降ろしてくれるでしょうか。交通法規も厳しくなり、会社の規則も厳しくなっていることでしょう。幼い子供や高齢者の方など弱い立場の人たちから頼まれたからといって、途中下車はかなり苦渋の選択を迫られることではないでしょうか。そう考えれば、人は生活の中でも大なり小なり選択を迫られることがあります。

令和元年十月、日本ではアジアで初となるラグビーワールドカップが開催されました。地元の人と触れ合う微笑ましい映像がたくさん放送されていました。ラグビーワールドカップで記憶に残っているのは4年前の日本代表と南アフリカ代表の試合です。今とは違って日本チームはそう強いチームとは言えませんでした。試合時間も過ぎ日本チームの1プレイで終了という場面、ミスひとつすると終了のホイッスルが吹かれます。驚くことは、その時点で優勝候補の南アフリカに逆転のチャンスがあったのです。相手の反則により攻撃に転ずるペナルティーキックのチャンスを得ました。3点差で負けている日本には選択肢がありません。成功確率が高いペナルティーゴールを決めれば3点差から同点となり試合終了し、優勝候補から勝ち点もぎとれるという歴史的快挙でした。しかし、日本が選択したのは「スクラム組もうぜー！」でした。体格的にも不利とみられ、ひとつのミスで試合終了となります。ですが、日本は可能性が低い勝利を目指し、スクラムを選択したのです。結果、なんとトライを決め5点を取り、歴史的な逆転勝利を収めたのです。

この勝利によって日本チームは、世界中から賞賛の声を浴びました。特に開催地イングランドでは、弱者を応援する地域性らしく、日本以上に歓喜する動画がたくさん拡散していました。スポーツ界ではたびたび弱者を応援する傾向が見られます。

では、今の日本はどうでしょう。いじめや虐待など心が痛む報道を見ない日はありません。絶対にいじめはいけませんし、弱者に寄り添い支援する選択を人はするべきではないでしょうか。

そう、自分が「あの時はそうするべきだったな。」と後で悔やまないためにも。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」十一月号より)

短いメッセージ かえるとき みまもりたいのひとが いつもおかえりといってくれて うれしいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 弓削小学校一年 西村萌花さんの作品より